

令和2年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時 令和2年7月9日 木曜日 10時00分から11時30分

2 会 場 秋田市役所4階 会議兼応接室

3 出席者

【委員】

高橋 誠記 委員長

鑑 隆千代 委員

辻 良之 委員

長谷部 弘輝 委員

【公立大学法人秋田公立美術大学】

霜鳥理事長兼学長、堀井副理事長、尾登副学長、毛内副学長、竹内事務局長、柳田総務課長、稲葉学生課長、畠山企画課長、工藤総務課長補佐

【設立者・評価委員会事務局】

近藤企画財政部長、北嶋企画財政部次長、堀井参事、伊藤主事

4 発言録

次第1 開会

事務局

ただいまから令和2年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を開会する。

本日は、5名中4名の委員が出席しており、本委員会条例に規定されている定足数を満たしていることを報告する。

次第2 新任委員の紹介

事務局

(長谷部弘輝委員を紹介)

事務局

議事の進行については、議長である高橋委員長にお願いします。

次第3 議事 秋田公立美術大学令和元年度業務実績について

委員長

次第に従い、議事を進行する。

本日の審議は、公立大学法人秋田公立美術大学の令和元年度における業務実績に対し、質疑や意見を頂くとともに、同年度の財務の状況等について質疑を行う。

令和元年度秋田公立美術大学の業務等の実績について、資料を公立大学法人秋田公立美術大学が説明後、質疑応答、意見聴取に入る。

公立大学法人	(「資料1-1」から「資料1-3」、「資料3」について説明)
公立大学法人	(「資料2-1」から「資料2-4」について説明)
委員長	それでは質疑応答、意見聴取する。
委員	連番80について、大学における法人職員の数、割合に最終的な目標はあるのか。
公立大学法人	最終的な目標を具体的に掲げているわけではないが、地方独立行政法人として適切な運営をしていくという観点では、できるだけ多くの職員が法人職員であることが望ましいと考えている。 なお、第2期中期計画期間においては、法人採用職員率50%以上を目指すこととしている。
委員	連番30について、他大学の作品展などの視察に行ったということであるが、共同の学生作品展などの構想の段階に至らなかったのか。仮に共同で研究等を行う場合、どのように実施するか。
公立大学法人	教職員が東北芸術工科大学を視察し、卒展の発表の実施方法や規模感、運営方法を確認した。 共同の学生作品展について具体的な話には至らなかったが、東北芸術工科大学の他にも東北圏のデザイン系の大学などと共同展示を行うなど、いろいろなやり方が想定されると思う。
委員	連番109の将来構想検討ワーキンググループについてであるが、開学10周年を迎えるにあたり、大学の求める大学の理想像などに基づいて、中期計画等を進めていると思うが、将来的に大学のあり方、目指すべき方向性や地域との関わり方についてどう進めていきたいと考えているのか。
公立大学法人	今後、秋田公立美術大学がどうあるべきかの根本にあるのは、秋田市と共に発展し、また、秋田市の発展に寄与できる大学かである。地域の活性化につながる教育研究活動の充実を図っていきたいと考える。 今回のコロナ禍を受けて、改めて内容を精査し検討しているところであるが、具体例としてはアニメーション系、コンテンツ系などの新しい分野を増設する案や、基礎教育センターを設置し、基礎教育を充実させる案などがある。
公立大学法人	美術・芸術については通常の大学では一般教養であるが、美術大学として、専門や教養は何かという確認が、10周年を迎えるにあたって必要である。 教学マネジメントなどの質を高めるため、秋田公立美術大学の特徴は何かということを中心として、秋田を意識した、秋田の地域性にこだわった美術大学にしていく必要がある。

また、学生がどういう考えを持っているのか、学生が世の中に出たときにどういった展開が可能なのかなど、学生のマネジメントについても考える必要がある。

学生数が400名程度の小さい大学なので、小さい大学なりの学生主体の美術教育のあり方を、10周年に向けて展開していけば、ユニークな将来構想になると考える。

委員

新屋のガラス工房と秋田公立美術大学との関係は。

公立大学法人

大学と新屋ガラス工房は別々の組織であるが、関わりも多い。

本学の教員がガラス工房に行って作業や指導を行うこともある。卒業後に就職した卒業生もいるほか、学生の作品の展示場所として活用するケースもある。

委員

海外の他大学に派遣した、または派遣された教員・学生がどういう成果を上げてきたのか、成果を生んでいるのかについての評価を今後どう考えていくのか。

また、秋田市に根ざした大学なので、大学で竿燈をデザインするなど、秋田の文化を取り込む、もしくは発信するような取り組みをやっていただければと思う。今までもそういった取り組みは行っているだろうが、まだまだ秋田市民の中での大学の認知度が低いと感じるので、ぜひ力を入れていただきたい。

公立大学法人

国際交流で派遣した学生、教員について、学内では発表や報告は行っているが、外部に向けての成果発表はまだうまくできていないように感じる。

秋田の歴史、文化を踏まえたうえで、美術を通して地域に貢献するという大学の基本理念に基づき、例えば、アーツ&ルーツという専攻では、市内のほか県内各地でフィールドワークを実施している。開学後8年目を迎えたばかりでありアピールが足りない部分もあると思うが、引き続き努力していく。

委員

コロナ禍の中で、美術大学という特性上、遠隔授業の実施は難しいと考えるが、この困難をどうやって乗り越えていくのか、また今回の経験をどうやって今後に生かしていくかを考えていただきたい。

公立大学法人

遠隔授業の実施に関して、パソコンを所持していない学生への貸与などの対応も行っている。またデジタルアートなど、コンピューターなしでは成立しない分野もある。

公立大学法人

海外交流については、遠隔授業を利用し、同一のテーマを他大学と共有することも可能なほか、大学間連携もオンラインで実施するなど、可能性は広がる。こうした、コロナ禍により考えさせられた面もあり、将来構想に向けても同様と考えている。

公立大学法人	ものづくりにおいて、対面での授業から遠隔授業に切り替えたことにより、学生に直接作品を触らせることができなくなったが、視覚中心の指導になったことによって、かえって学生の認識力が上がったなど、コロナ禍の中で新しい発見があり、授業改善につながったところも多くあった。
委員	<p>決算報告書について、予算に比べて、研究費と一般管理費の決算数値が大きく違っている理由について、予算の段階では間接費の振り分けをしていなかったためこのような結果になったということか、また、毎年このようにやっていたのか。</p> <p>貸借対照表の図書について、認定除却とあり、所在の確認できないものなどとなっているが、平成31年度の除却数が1,209点と言うことで、認定除却があったのか、あったとすればどれぐらいの係数だったのか。</p> <p>損益計算書の中で、新屋ガラス工房の負担金が750万円ほどあるが、これが貸借対応表において未収になっているのか。</p>
公立大学法人	<p>図書の除却について回答する。昨年度の除却1,209点のうち3点が所在不明等により認定除却を行っている。この前年度には、該当はなかった。</p>
公立大学法人	<p>決算報告書の件について、予算は一般管理費の中で一本となっているが、決算では教育研究費にも計上するものがある。具体的にいえば教育施設にかかる光熱水費、業務委託費などを各経費に振り分けることになるので、予算と決算額にずれが生じている。</p> <p>前年と比べて経費が増えたということではなく、毎年このような形で整理している。</p> <p>なお、令和2年度の予算に関しては、これまでの実績をもとに予算を振り分けた形で編成しているので、この問題は解消されるものと考えている。</p> <p>また、ガラス工房の件については、未収金として計上している。</p>
委員	<p>予算の段階で間接費の振り替えをしておらず、決算の段階で振り替えをするので、このような相違が出るということか。</p>
公立大学法人	<p>そのとおりである。</p>
委員	<p>コロナ禍により、計画していた事業ができなかったと思うが、計画に対する評価について、外的要因を要素として含めたかどうか等、評価においてどう整理をつけたか。</p> <p>内部質保証が認証評価においても非常に重要であるが、きちんとPDCAを回すための体制整備が重要になると考える。このことについて、貴学の状況はどうか。</p> <p>6月1日に19人に支給したと記載されている生活支援金について、公平性という点から、支給対象となるかどうかを判断する際に苦労があったのではないと思うがどうか。</p> <p>また、ポートフォリオの用語解説がないため注記が望ましいと考える。</p>

公立大学法人	<p>業務実績評価については、純粹に、コロナ禍という外的要因を踏まえた上で、評価に反映させた。</p> <p>内部質保証については、組織体制の整備を含め、今後の対応が必要であると認識している。</p> <p>生活支援金については、大学の基準で家計が大変な学生を対象として支給をした。</p>
公立大学法人	<p>4月の末頃に全学生を対象とした簡単な調査を実施し、その結果を踏まえてアパートや下宿住まいの学生を対象にし、アルバイト収入、家計急変学生からの申請を受け付け、状況を確認し支給を行った。</p>
公立大学法人	<p>ポートフォリオについては、美術大学の場合は写真や絵など、必ず可視化したものである。通常の大学だと、論文や研究などである。</p>
公立大学法人	<p>学生が就活する際には判断材料として、会社から要求されることもある。</p>
公立大学法人	<p>会社はなぜその作品、アイデアができたかなど、プロセスを大事にする。学生には、単なる結果報告で終わらせることがないように日頃から伝えている。</p>
公立大学法人	<p>内部質保証、教学マネジメントについて、昨年度は、将来構想 2030 と題して、10年後までに目指すべき秋田公立美術大学の将来像について、課題を整理し、大学の体制強化や基礎教育、新たな分野、領域横断プロジェクトなど、新たな構想を練った。それらを踏まえて、中間報告を取りまとめ、昨年度末に教育審議会に報告している。</p> <p>将来構想の検討作業は、コロナ禍を受けて中断していたが、6月末から再開している。</p>
委員長	<p>本日の意見等については、評価委員会事務局で集約し、次回の評価委員会で確認できるよう願います。</p> <p>議事が終了したので、進行を評価委員会事務局にお返しする。</p>
次第4 その他	
事務局	<p>(今後の予定を説明)</p>
次第5 閉会	
事務局	<p>令和2年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を閉会する。</p>